

The World 世界の旅

このコーナーはエムトラをご利用のお客さまや、エムトラスタッフ(や、そのペット)から寄せられた世界の話を皆様に紹介するコーナーです。貴重な体験をお持ちの方はどうぞエムトラへ。

名犬モモ一匹旅「ドバイ」編

※この物語はフィクションです。

拝啓、日本の皆様。
モモは今、ドバイに来ています。
世界一のクワード、巨大ショッピングモールやゴージャスホテルは
一通り見学済み。
今日は現地の子どもたちと一緒にドバイ博物館、ドバイの歴史をお勉強。
お勉強と言っても…どの国の子どももみな同じ。
民族衣装に身を包んだ子どもたちもデジカメ片手にはしゃいでいます。
子どもたちとここで別れた後は、
砂漠を4WDで駆け巡るサファリツアーヘ。
砂漠に沈む夕陽をとらえるべく、カメラのチェックに余念のないモモなのでした…。
くづくく>



ながむらくんの カボエイラ修行記⑤



前回までのあらすじ：カボエイラを極めるべく、「マイ・ハニー」エミさんと共にブラジルへ旅立った中村君。徐々に生活にも慣れてきた頃、現地ではお祭り期間に突入。そこで見たものとは…。

祭りのメインであろう日に地元の生徒「デジニョ」からホームパーティーに誘われた。

前にも言ったように生徒の大半は貧困層。会場である民家もファベーラにあるためデジニョとともに会場へ向かった。やはり地元民とともに行動するのは格段に安全で心強い。それでも初めて踏み入ったときはどこか不気味で、雨に濡れた街並がよりいっそう魔病風を引き起していた。ファベーラを散歩し着飾らないバイアを感じることができたのは稀少なことで印象深い。ファベーラについてはとりあえず置いといて会場へと急ぐ。

祭り効果か、平日昼間から所々で乱痴氣騒ぎを目にし、グレイに彩られた雰囲気は一掃されていた。しばらくすると音ワレするひとときわ痛快な音楽が聞こえてきた。「あそこかな？」

歩くこと20分、見当通り無事会場となっている民家に到着した。2Fに通され強引な配線で設置されべこになったスピーカーから繰り出される音ワレはさらに鼓膜を刺激した。そこは生活感のある10畳くらいの部屋+ベランダで、30人くらい地元の若者がたむろしていた。俺達以外は予想通り全員黒人。

さすがは収穫祭、テーブルにはお酒や郷土料理、お菓子やケーキなど家庭の味がはち切れんばかりに置かれていた。

その部屋でバゴージとよばれる音に合わせ皆踊り狂っている。あるフレーズに差し掛かると、バイアギャルたちは列をなすか、床に置かれた瓶をまたぐかして、しこたま腰を振りまくり大盛り上がり。どうやらこれは流行でお約束らしい。俺も飯を食らい酒を食らいノリノリでフリフリ、流行に便乗した。

そんなこんなでパーティーに酔しれること約2時間、あることに気付く。なんにも変わってないのである。ずっと一緒に曲で一緒に流れで一緒に踊り…

また！？…

えまた！？…

さすがに俺は飽きていて不愉快な空間へと成り下がっていた。どこか場所を移したいが外はすっかり夜のファベーラ、道もわからずデジニョがいないと帰路につけない、デジニョはというと…誰よりも楽しそうに狂っている…。

流れ変わらず居座ること8時間…どうやって帰ったかは記憶にございません。いくら大好きな曲「さよなら人類」でも8時間リピートされたら意識もろとも木星に着いてしまう。

あいつらは「persistente」や「cansado」といった「しつこい」「飽きた」という言葉を一体いつどのように使うのか？バイアの州民性を表す代表的な言葉は「ほどほどを知らない」。これに尽きる。

ちなみに俺たちが会場を後にすると、バゴージは鳴り響いていた。

<つづく>

2012年12月から 小松一台北線が毎日運航!
あなただけの台湾を探しに出かけませんか?

4日間 ¥45,000~ (2名1室利用/大人お1人様あたり)

壹 19:30 小松空港発、エバー航空で台北（桃園空港）へ。
到着後、混載車でホテルへ。
明日からに備えてゆっくりお休みください。◆台北泊

貳 ホテルにて朝食後、まずは台北の定番観光地を押さえます。
午前：故宮博物館、忠烈祠、民芸品店へ。
昼食：名店「鼎泰豐」で小籠包。
午後：茶芸教室、行天宮、占い横丁、竜山寺、中正記念堂、総督府（車窓）、免税店
その後はフリータイム。夜市めぐりで伝統の大イトライフを満喫しては。
寧夏夜市は別名「台北の胃」。美食密度の高い夜市です。
師大夜市は若者向けの屋台やショップ、カフェが並びます。
どこがいいか決めかねる人は、とりあえず台北最大の士林夜市へ行けば間違いないでしょう。
活気ある夜市よりもゆったり過ごしたい…という人は、24時間書店「誠品敦南店」へ。本以外にもカフェ、ショッピングモール、カルチャーセンターも併設されている台湾流行的発信地。雑誌「タイム」アジア版で「アジアで最高の書店」に選ばれたことも。

参 終日フリータイム。
大自然に感動したいあなたは→野柳風景特定区へ。
市内から列車やバスで約1時間。あちこちに屹立する奇岩の群れ。有史以来の地球が作り出したナチュラルアートは圧巻です。
「クレオパトラの横顔」「童顔」「象」「豆腐」etc.見えますか？
目もお腹も満足させたいあなたは→淡水へ。
市内からMRT 淡水線で終点へ。
「台湾のウェネチア」と言われる淡水。
川沿いに密集する屋台で海鮮を食べながら、夕日の美しさにうっとり。
やっぱり台湾に来たら温泉でしょ！というあなたは→烏来へ。
台北駅前から高速バスで約1時間半。
のんびりとした温泉情緒が楽しめる街。
川から湧き出る温泉で足湯をしたり、地下の温泉の熱で天然岩盤浴を楽しんだりできる老街や懸橋の周辺もおすすめ。(水着を忘れずに)
これらのプランはほんの一例。もっと違う過ごし方はないの？って方はエムトラにてご相談ください。◆台北泊

肆 出発までフリータイム。散歩で朝市へ行ってみては。
雙連朝市は生鮮食品の屋台の他、寿司にお粥にチマキにゼリー、青空マッサージ、靴に下着、キッチン用品まで、様々なお店がひしめき合って、朝からディープな台湾が体験できる。
午前中にお土産店経由で空港へ。
14:45 台北発→小松へ。

+α 2日目の観光を更に盛りたくさん(+6000円)
午前：霞城煌廟参拝(縁結びの名所)、
台灣式シャンプー体験、民芸品店
昼食：ヘルシー担仔麺料理
午後：永康街、台灣かき氷試食、故宮博物館、九ふん觀光
夕食：レストランで郷土料理
饅頭街觀光夜市、胡椒餅の試食

*ご出発日：2013年3月まで(3日間のプランもあります)
*利用予定ホテル：レオパー、ユニファースト、パラダイスクラス
(プラス料金でホテルのグレードUPもできます)
*食事：朝食3回(3日間の場合は2回)、昼食1回(機内食は除く)
*最少催行人数：2名
*添乗員は同行しませんが現地係員がご案内します。
*1人部屋追加代金で、1名1室利用もできます。
*空港税、燃料費、海外旅行保険代、エムトラベル手配料は別途頂きます。
*2日目の市内観光放棄の場合+3000円となります。
*企画・実施：オーバーシーストラベル

スパイスクの虎

これを効かせたら、味も旅もぐっと深まります。

毎号1種類ずつ取り上げてご紹介。

第5回【ペッパー(胡椒)】

今回は世界中で愛されるキング・オブ・ポップ(マイケル・ジャクソン)ならぬキング・オブ・スパイスクペッパー(胡椒)をご紹介します。

ブラック、ホワイト、グリーン、ピンク…すべてペッパーの種類。いずれも同一植物から取られます。

さわやかな香りと強い辛味で、肉料理、魚料理、野菜料理、あらゆる食品の味付けに欠かせない存在。日本では江戸時代前半、うどんの薬味として流行したとか。しかし、その後、風味

南九州をめぐる4日間

¥67,100~ (以下に記載のホテルに3名1室利用の場合、大人1人あたり)

温泉めぐり、食べめぐり、歴史めぐり、アートめぐり…

さあ、あなたが気になる南九州は？

今回は北陸から、往路はのんびりJR・復路はパパっとライトのプランでご案内します。滞在中はフリータイムなので、お好みの過ごし方をどうぞ。

一日目 朝、北陸各駅～新大阪乗り換え～午後 鹿児島中央駅。

例えばこんな過ごし方

童宮伝説をモチーフに作られた“特急列車・指宿のたまご”に乗って、指宿へ。
長旅の疲れは温泉で。指宿の砂蒸し風呂は体験しておきたい。
心地よい潮騒のリズムと砂の重みで身も心もすっきり。
夜は、ご当地グルメ“温たまらん豚”。ご賞味あれ。

＜指宿 いわさきホテル泊＞

二日目

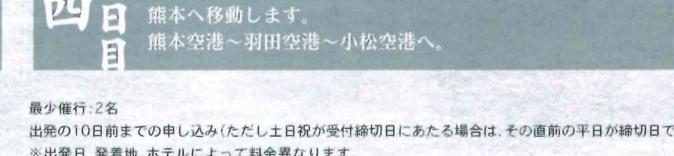
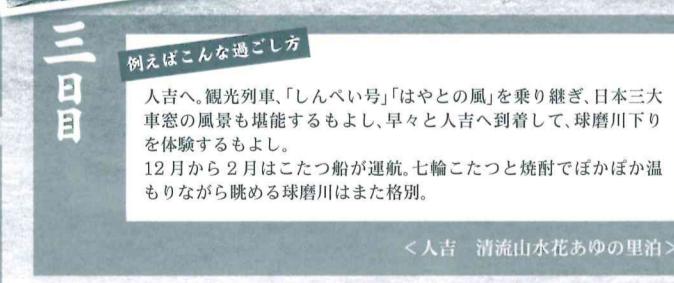
例えばこんな過ごし方

霧島へ。標高700mに位置する野外美術館「霧島アートの森」は自然とモダンアートが共存する不思議な世界。
霧島神宮の神々しい空気に包まれた後は、温泉の泥パックで疲れたお肌も劳わりましょう。

＜霧島国際ホテル泊＞

2012年10月～2013年3月まで

旅行代金に含まれるもの：規定の北陸発着往復交通費・宿泊費・食費
(フリータイム時の移動費、入場料などは含まれません、食事回数は宿泊施設によって異なります)
往路：JR(新大阪～博多間)はのぞみ・ひかり・こだま利用、博多以降はさくら・つばめ利用
(追加金で、新大阪から直通のさくらにもできます)
復路：JAL便限定、羽田乗り換え



最少催行:2名
出発の10日前までの申し込み(ただし土日祝が受付締切日にあたる場合は、その直前の平日が締切日です)
※出発日、発着地、ホテルによって料金異なります。
※宮崎県を含めたプランもあります。
詳細はお問い合わせください。
企画・実施:(株)日本旅行

のある七味唐辛子が流行した為、うどんに使用することはなくなったようです。今ではラーメンに胡椒が定番ですね。うどんやそばに試してみて面白いかも。そういうえば、以前テレビの某番組で「古代ローマではプリンに胡椒をかけて食べていた」と紹介されてました。とりあえず、いろんなものにかけてみると値段あります。

効能と薬効は胃弱、消化不良、下痢、腹痛などの症状に対して、利用される健胃薬であり、中でもブラックペッパーはアロマオイルとしても有用。血行促進、新陳代謝を良くする効果があり、塩などじませてお風呂に入ると体が温まります。また、精神的にも弱気になっている時や、冷淡な気分になってしまった時には、刺激性のある香りで情熱とエネルギーを蘇らせる効能もあり。

心と体を温めてくれるペッパー、活用しない手はないようです。

岩崎さんのカナダ滞在記



自分が生まれ育った場所以外のところに滞在してみると。自分の馴染んでいた気候・考え方・暮らし方から切り離される。私がカナダへ行った大きな目的一つです。

半年間のそのような経験の中で、特に衝撃的だったのは信仰のことです。ホームステイ先としてクリスチヤンやその牧師夫妻にお世話になり、毎週日曜日の礼拝の他、教会主催のボランティア活動や聖書の勉強会などにもよく連れて行っていただきました。クリスチヤンでないどころか、「クリスマスはケーキを食べる日で、大晦日には除夜の鐘を叩き、翌日神社で初詣」というタイプの私から見ると、彼らはまっすぐ一本道を歩いているようですが、初めのうちはそのような篤い信仰心を持つクリスチヤン達に囲まれてなにか申し訳ない気持ちになっていました。けれど彼らの活動に混ざっているうちに、ルートは違えど自分も一本道を歩いていた事、その一本道は自分の生まれるよりもずっと昔から日本で積み重ねられて出来あがったものであるという事を気づきました。

そして日本での自分の生活を振り返ってみた時、自分の馴染んできた環境やそこに根付いている暮らししかどんなものかという事が今までよりもくっきりと浮かび上がり、ホームシックも相まって(?)、それらへの興味が次々と湧いてきました。

出発前に「これからどんな経験をするのだろう？何が起きるのだろう？」と色々想像をめぐらせたのですが、自分を育てくれた土地の奥の深さをこれほど実感する・知ることになるとは思っていませんでした。

その他、驚きや発見が書ききれないほどあった事を嬉しく思います。また、滞在中に色々な戸惑いを受け止めてくださったカナダの方々に感謝しています。